

# シビル メール ニュース

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方は購読を希望される方は、必要事項(卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス)明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 平成20年卒業予定者対象の就職関係行事

平成19年卒業予定者の就職関係行事がほぼ終了し、平成20年卒業予定者(現在の学部3年生や大学院1年生)を対象とした就職セミナーや就職説明会が本格的に開始されました。そして一部には3年在学中に会社内定者が出始めております。なお、平成19年就職予定者は、卒業予定者(就職希望者)に対して就職率がほぼ100%



民間企業OBによる座談会

です。

後期試験が終了した翌日の2月8日には平成20年卒業予定者に対する本学科主催の第2回就職説明会が第1回(昨年12月15日)に引き続き行われ、55社の企業と公務員OBによる座談会



就職説明会



公務員内定者体験談

約150名の学生が参加しました。また同時に公務員志望者に対しては、今年度の公務員試験に合格した4年生4名から体験談やアドバイスが与えられ、質疑応答が行われました。さらに卒業生の先輩方にも協力をいただき、民間企業(ゼネコン・コンサル)及び公務員(国交省・都庁(特別区)・千葉県庁)志望学生に対して、それぞれアドバイス等が行われました。

## 理工学部客員研究員について

下記の3名が理工学部客員研究員として教授会において承認されました。

(1) **山田泰生氏**(社団法人国際海洋科学技術協会理事)

受入期間：平成19年2月1日～平成20年1月31日

研究テーマ：「海岸侵食防止工の効果と森林間伐材の利用方法についての提案」

(2) **矢島隆氏**(財団法人計量計画研究所常務理事)

受入期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日

研究テーマ：「東京湾臨海部開発動向調査」

(3) **黒澤美幸氏**(京都大学エネルギー科学研究所)

受入期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日

研究テーマ：「農業における地球環境・地域環境影響の推計」

## 平成 18 年度 学部卒業生ならびに大学院修了生の論文発表会

平成 18 年度土木工学科卒業生卒業研究の発表会が、2 月 3 日から 2 月 23 日にかけて各研究室（全 22 研究室）毎に駿河台校舎で行われました。また、平成 18 年度大学院土木工学専攻の博士前期課程の修士論文発表会は 2 月 26 日に開催され、35 名の発表が行われました。本年度は理工学部土木工学科より 231 名、大学院より 35 名が卒業・修了予定です。尚、大学院修了予定者氏名と修士論文題名は、次のとおりです。

### 平成18年度 日本大学理工学研究科 修士論文題名一覧

氏 名	論文題名
【構造系，地盤系，土材系】	
五十嵐 進 介	14 号館の挙動シミュレーション
岩 田 祐 司	地盤-杭基礎系の動的相互作用-せん断土槽を用いた模型実験-
岡ノ谷 圭 亮	蒸気養生したフライアッシュコンクリートの特性
小 野 大 輔	市街地の風況解析のための六面体有限要素メッシュ生成法
加 藤 弘 樹	ひずみエネルギー蓄積破壊伝播における模型地盤の破壊機構と応力再配分
河 又 康 博	地震観測記録に基づく地盤諸元の同定法とその適用
木 村 友 裕	電気炉スラグの建設材料への利用に関する研究
桐 生 和 明	鉄鋼スラグを使用した汚染土壌中の六価クロム溶出抑制に関する研究
黒 田 剛 司	高性能AE減水剤がモルタル硬化体の空隙構造に及ぼす影響に関する研究
坂 井 隆 之	混和材料を用いたモルタルの塩化物イオンの透過性に関する研究
鈴 木 克 典	角柱端部からの噴流を用いた振動制御手法の実験
鈴 木 寛	斜面安定解析に及ぼすせん断帯厚さの影響
高 橋 弘 元	傾斜実験と平面ひずみ圧縮試験によるJamuna砂と豊浦砂のせん断特性の比較検討
田 邊 康 太	3 層構造モデルの振動特性と制御
中 野 安 親	海岸植物群落下の砂質地盤締め固め特性
畑 迫 一 毅	鉄鋼スラグを使用したコンクリート混和材の特性
吉 野 隆 志	歩道橋の振動特性と制御
【水理系，計画系，環境系】	
岡 洋 希	透過性パイプを有するエコステップ魚道の水理特性
桔 梗 雅 史	大規模自然災害等の緊急事態における立法機能の継続的な確保について
佐 脇 拓 也	階段を流下する空気混入流中の物体の抗力係数
須 藤 友 仁	跳水中のバップルブロックに作用する抗力
全 田 和 之	スリット式砂防堰堤における減勢工の水理特性
高 岡 明 誉	土地区画整理事業と市街地再開発事業の 合併施行の効果
高 木 祐 介	魚道設置に伴う堰下流側の流況特性
竹 田 眞理江	急斜面上に設置されたブロック魚道における流速特性
田 村 貴 史	飛砂粒子の跳躍水平飛行距離分布に 関する風洞実験
寺 田 直 弘	溝型粗度上に形成される跳水の特性
中 原 正 允	傾斜面上に設置されたブロックによる斜流のエネルギー減勢
長 川 時 生	カエデ科カエデ属トウカエデ枯葉部抽出液を用いた 有毒藍藻類 <i>Microcystis aeruginosa</i> の増殖抑制に関する研究
長 島 瑞 生	新都市基盤整備事業の展開に関する研究
野 田 朋 宏	落葉広葉樹枯葉部を用いた有毒藍藻類 <i>Microcystis</i> の増殖抑制に関する基礎的研究 -サクラ枯葉部からの溶出特性試験-
古 谷 英三郎	パーム油製造廃水からのバイオマスエネルギー資源の回収と環境汚濁防止に関する研究
正 木 崇 裕	路上駐車取締りの民間委託制度の導入効果に関する研究
守 口 直 希	鉄道の立体化が地域交通に与える影響に関する研究
渡 邊 司	パーソナルスペースを考慮した歩行者行動モデルの構築

## 平成 20 年度 日本大学工学部・大学院理工学研究科入試情報

平成 20 年度の理工学部及び大学院理工学研究科の入試日程予定は次のとおりです。

### 【理工学部】

#### 推薦入試

- |          |                          |
|----------|--------------------------|
| ◇公募制高校長  | 試験日：平成 19 年 11 月 18 日(日) |
| ◇指定校     | 試験日：平成 19 年 11 月 17 日(土) |
| ◇付属 A 方式 | 試験日：平成 19 年 12 月 16 日(日) |
| ◇付属 B 方式 | 試験日：平成 19 年 11 月 17 日(土) |

#### 一般入試

- |                     |   |
|---------------------|---|
| ◇AO 入試              | 試験日：平成 19 年 10 月 21 日(日)                                      |
| ◇外国人留学生入試           | 試験日：(第 1 期)平成 19 年 6 月 17 日(日)<br>(第 2 期)平成 19 年 11 月 11 日(日) |
| ◇帰国生入試              | 試験日：平成 19 年 11 月 17 日(土)                                      |
| ◇A 方式               | 試験日：平成 20 年 2 月 11 日(月)                                       |
| ◇校友子女               | 試験日：平成 20 年 2 月 11 日(月)                                       |
| ◇CA 方式              | 試験日：平成 20 年 3 月 5 日(水)  |
| ◇C 方式－第 1 期(センター入試) | 試験日：平成 20 年 1 月 19 日(土)、1 月 20 日(日)                           |
| ◇C 方式－第 2 期(センター入試) | 試験日：平成 20 年 1 月 19 日(土)、1 月 20 日(日)                           |

#### 編入 試

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| ◇編入試(推薦) | 試験日：平成 19 年 9 月 12 日(水) |
| ◇編入試(一般) | 試験日：平成 19 年 9 月 12 日(水) |
| ◇学士      | 試験日：平成 19 年 9 月 12 日(水) |

### 【大学院理工学研究科】

#### 博士前期課程

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| ◇一般第 1 期  | 試験日：平成 19 年 7 月 1 日(日) |
| ◇一般第 2 期  | 試験日：平成 19 年 9 月 8 日(土) |
| ◇一般第 3 期  | 試験日：平成 20 年 3 月 8 日(土) |
| ◇社会人第 1 期 | 試験日：平成 19 年 9 月 8 日(土) |
| ◇社会人第 2 期 | 試験日：平成 20 年 3 月 8 日(土) |

#### 博士後期課程

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| ◇一般第 1 期  | 試験日：平成 19 年 9 月 8 日(土) |
| ◇一般第 2 期  | 試験日：平成 20 年 3 月 8 日(土) |
| ◇社会人第 1 期 | 試験日：平成 19 年 9 月 8 日(土) |
| ◇社会人第 2 期 | 試験日：平成 20 年 3 月 8 日(土) |

尚、入試内容の詳細について<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/nyushi.html>をご覧ください。

## 最近の教員活動状況



島崎敏一教授が、1月25日に開催された「CALC/EC MESSE 2007」で企画されています「CALC/EC シンポジウム」のコーディネーターを務めました。日本建設情報総合センター(JACIC)は、財団法人港湾空港建設技術サービスセンター(SCOPE)と共同で『“対応から活用へ” CALC/EC による新しい業務プロセスと最新の建設 IT を体感する2日間』をテーマとして、「CALC/EC MESSE 2007」を開催しました。「CALC/EC MESSE 2007」は「国土交通省「CALC/EC アクションプログラム 2005 の取り組みと今後の展望」と題した CALC/EC シンポジウムをはじめとした各種セミナーと建設 IT に関する最新製品/技術を一堂に集めた国内最大級の展示会から構成されております。島崎敏一教授がコーディネーターを務めた「CALC/EC シンポジウム」は『情報共有・連携、業務プロセスの改善による実際の効果、課題及び今後の方向性』テーマでした。



安田陽一教授は、2月16日～23日にニュージーランドクライストチャーチで開催された第6回国際環境水理に関するシンポジウムにおいて論文発表のため出張されました。



鎌尾彰司専任講師は、(株)スパンクリートコーポレーションと共同で、多自然型をめざしたポーラスコンクリートパネルを用いた緩傾斜護岸工法の開発をされ、その施工試験がスパンクリート・岩瀬工場において行われました。前面にプレキャストのポーラスコンクリートを有する2層式コンクリートパネルを連結することにより、植物が生育できる多自然型環境を目指しております。現在は国土交通省関東技術事務所において NETIS (新技術情報提供システム) の登録に向けて取り組まれており、まもなく製品化される予定です。また、垂直擁壁への開発も手がけられております。  
問い合わせ：スパンクリートコーポレーション・営業部 (木村憲司)：03-5689-6315



金子雄一郎専任講師は、1月26日に都内で開催された「JICA フィリピン国カウンターパート研修」において「総合交通データベースの利活用」と題する 公務員内定者体験談 講義を行った。同研修は、JICA (国際協力機構) が国際協力の一環として、主に途上国政府の幹部職員を対象に実施しているものである。講義では、我が国における総合交通に関する種々の統計調査の特徴やそれらの具体的方法、実際のプロジェクト等における活用事例などが紹介された後、活発な議論が行われた。



山敷庸亮専任講師は、第5回ラプラタ川流域ワークショップキックオフミーティングを南米ウルグアイの首都にある UNESCO モンテビデオオフィスにて開催します。本ワークショップは日本大学学術助成金の支援をうけ、国連環境計画 UNEP や世界水アセスメント計画(WWAP)らと共に開催された第4回ラプラタ川流域ワークショップ(2005. 11. アルゼンチン/ウルグアイ)の結果を受け継ぎ、次の流域ネットワーク構築のために新たな第一歩を踏み出すもので、国際的な枠組みに日本大学が具体的に貢献した例として流域諸国から高い評価を受けております。国連機関との共催による会議の詳細については次号以降に報告いたします。